

チム九

印刷を支え加工を活かす

西岡 匡代

工場本部
瓜破工場 工場長補佐

瓜破工場にて、工場長補佐として日々邁進する西岡匡代さん。女性の工場長補佐は前例がありませんが、それが偉いわけではありませんと話す西岡さん。仕事への思いや、今後の展望について伺いました。



——旭紙工株式会社に入社されてから工場長補佐に就任されるまで、どのような経緯がありましたか。また、女性で工場長補佐に就任されてのお気持ちを聞かせください。

最初はアルバイトから始め、経験を積んだ後正社員になりました。その後、東大阪工場で副工場長になり断裁の仕事をして、2年半ほど経った後に瓜破工場の工場長補佐に就きました。

女性だからという点で違和感はありませんが、男性が多い現場で、女性としての見方ができるという面で活躍できたらいかなと思っっています。瓜破工場になってからは、カレンダーなど色々分らない仕事がたくさんあるので、まだまだ勉強中です。女性も多いので、環境が違って新しい発見が楽しく感じます。

——大変だったお仕事について、教えてください。

東大阪工場の頃は、男性ばかりの職場でした。男性と同じように

に、負担になることを省き、新しく入った人にも何がどこにあるのかすぐ分かるように整理整頓して、環境を整えていくつもりです。そのために、みなさんとコミュニケーションを取って色々な声を聞き、試行錯誤しながら変えていきたいと考えています。

周囲の意見を聞いて柔軟に動き、職場をさらに良くしていこうという前向きな西岡さん。これからも仕事への情熱は変わることはないでしょう。

作業をしようと決めていましたが、紙が重いので限度があり、周りの方に手助けをしてもらいながらの日々でした。女性で断裁の仕事をしている人が他にいない状況で、最初は3名ほどで作業をしていたので、大変でした。

——思い出に残っているお仕事はありますか。

東大阪工場では毎年タイ人の研修生を受け入れていまして、もう12期生にまでなったのですが、初めて1期生として3名受け入れたときのことはよく覚えていますが、仕事を教える他に、私生活では一緒にお酒を飲んだこともあり、楽しかったです。



言葉が分からないので、身振り手振りで教えるしなければならなかったのは大変でしたね。一応皆さん日本語を勉強して来られるのですが、簡単な言葉しか分からないので、何回か教えて覚えてもらいました。また、男の子ばかりの寮だったので、どうしても口うるさく言わなければならず、生活習慣も違うので、教えることがたくさんありました。

——この経験で学んだのはどのようなことでしたか。

タイは微笑みの国なので、皆さん常に笑顔でいる印象があります。私が少しでも辛い顔をしていると、「どうしたの」と聞いてくれました。楽しく仕事をするのは良いことなので、大変でも笑顔で乗り切る精神を学びました。

——これまで、思わず辞めたくなったことはありませんか。

大量にあった品物のラベルを全部貼り間違えて、夜勤の方も含めて全員で貼り直してもらったとき

には、辞めたいと思いましたね。東大阪工場で、副工場長になる前ですが、たった一度の見落としが全員の作業を止めてしまったのです。

本社から派遣された人が作業した品物を見たら、ラベルを貼る場所が違ったので、指示書を確認すると、本社の貼り方が正しかったのです。ほぼ終わりがけだった作業を全てやり直すことになってしまい、すごいことをしてしまったと思います。自分ではどうしたら良いのか分からず、すぐに工場長に報告しました。

そのときは「辞めたい」とは思いませんでしたが、ずっと考えていても仕方ありません。意識して切り替えるようにして、次の仕事まで引きずらないようにしていました。この失敗をきっかけに、とにかく指示書を確認を見て、タイ人の研修生に教えた後は、ちゃんと伝わっているかを確認するようになりました。

——この先の目標について教えてください。

作業する人が集中できるように

企業情報

- ◆ 創 立 年 : 1983 年 1 月
- ※ 創 業 : 1963 年
- ◆ 年 商 : 15 億 円
- ◆ 従 業 員 数 : 200 人

※ 2018 年 12 月 実 績

設備紹介—プリマ—



私が紹介
します！

20年以上の歴史を持ち、MAX12000回転を誇る大黒柱「プリマ」
今回は山野さんに機能や注意点、プリマと苦楽をともにした
エピソードを伺いました。皆さん必見です！



工場本部 瓜破工場
副工場長
やまの ひろふみ
山野 博之さん

1時間で12000冊

Q.どのような機械なのでしょう？

中綴じをする機械です。折り機で折られたものを順番通りに丁合して仕上げます。最大12000回転、つまり一時間で12000冊を綴じることができます。ちなみに、いままでMAX回転は一度も出したことはありません(笑)他の機械にない特徴として安全性が挙げられます。具体的には、中綴じの部分に触ってもケガをしないように、針金が「く」の字になっています。取り扱う出版物は、『広報まつばら』のような地域の広報紙や通信販売のカタログなどです。現在、11台あります。

中綴じとは、中央部分を針金で止める綴じ方です。
一冊の本が出来上がるまでは、印刷→断裁(最初に製本に使用するサイズに切る)→丁合(製本を行う際の重ねる順に並べる)→折り(紙を折り、機械にセットできる状態にする)、そして綴るという工程を経ています。

25年の大ベテラン

Q.現在の設備はいつ導入されたものですか？

私が入社されたとき既にあったので、25年以上あります。ずっと一緒に過ごしてきたので愛着が湧いたような気がします(笑)

免許は不要！

Q.使用するには資格や免許等は必要でしょうか？

特別な資格や免許は必要ありません！研修で使い方を学べば扱えるようになります。古い機械に関しては構造を理解しなければいけないので、少し難しいかもしれませんが、最近の機械は技術が進歩して、誰でも使いやすくなっていますね。

頼りになる9名

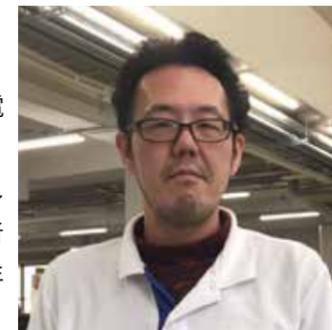
Q.現在この設備を使用できる方は何名いますか？

機械セットオペレーターが9名います。出版物ごとに綴じる位置やサイズなど、機械の設定を行っています。

抜群のスピード達人

Q.その中で一番「達人」は？

中西 正人さんです。入社21年目です。機械セットオペレーターの中でも、抜群にセットが速いです。「もう終わったの!？」と思うほどです。まさに電光石火です。今でこそ「達人」な中西さんですが、入社当時は機械のセットにとっても苦労していました。真面目にコツコツと学ばれて、今では熟練者へと成長しました。中西さんとの付き合いも今年で21年目。とても信頼しています。



触るな危険！

Q.使用上での注意点はどこでしょうか。

「とにかく可動部に触らない」ことです。機械の馬力はとても強いので、注意を怠り可動部を触ってしまうと大事故に繋がります。過去に大ケガの事例が多々あるため、日頃から社員には注意を怠らないように伝えています。また、「確認作業を怠らない」ことも大事です。一度機械をスタートしてしまうと、多数の出版物を無駄にしてしまうため設定の確認を怠りません。具体的には機械セットオペレーターが設定を終えたら、部門長が確認を行うようにしています。

こだわった極上見本

Q.その設備を使用しての一番思い出に残っていることはなんですか。

トヨタ自動車の「ヴェルファイア」のカタログです。カタログの仕事が一番品質の良い見本である「極上見本」を作る必要があります。その見本を作る際、自分の納得がいく成果物ができず、とても苦労しました。特に見開きのページがずれないように調整する作業にこだわりを持って取り組みました。後輩と二人で24時間かけて、ようやく満足いく成果物ができました。完成したときは、とても達成感がありました。それ以降も品質へのこだわりを忘れずに作業に取り組んでいます。

安全性・効率性
UP

Q.今後の目標

安全性と効率性を担保できるよう、モノや人の配置を最適化することです。具体的には梱包する人員や資材などの配置を模索中です。工場にとって最適な配置をすることで安全性・効率性が向上し、売上の向上につながると考えています。工場一同協力して頑張ります！

